

令和2年度

事業報告書

特定非営利活動法人手話教師センター

中華人民共和国湖北省武漢市で2019年12月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生が報告されて以来、世界各地で感染が拡大し、2020年3月11日WHOはパンデミックを宣言しました。我が国においては、2020年4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言を行い、4月16日に対象を全国に拡大しました。手話教師センターは、2020年度最初に予定された行事は二転三転の上、中止になるなど、対応に追われました。そして、5月の大型連休以降の行事において、可能な限りオンラインで行なうことにし、対面が必要な場合は、その時のコロナ感染状況をみながら実施することにしました。詳細については、下記報告の通りです。

1 事業の成果

【育成】今年度最初の第49回定例会は再々延長の上、中止となった。その頃から大学等の教育機関では対面からオンラインへ、企業では出社から在宅勤務への切り替えが徐々に進み、そうした中、第50回定例会（6月）はオンラインで行なった（特別講演会「デフ・スペースについて」）。会員サービスの一環として法人会員及びサポーターは無料とした。また、8月には、オンラインやオンデマンドを用いた新しい指導のあり方をめぐり、緊急定例会を行なった。第51回、第52回はオンラインで行ない、参加者は北海道から沖縄までに及んだ。結果的に定例会を予定通り4回実施することができた。（第52回定例会は名古屋で行なう予定だったが、オンラインに移行した。）△日本手話ブラッシュアップ講座については、年度最初の4月実施分はコロナにより中止にした。その後、予定を見直し、すべてオンラインに移行することになった。1回の開講時間を40分から60分に変更、講師指名を導入するなど、今年度は試行錯誤しながら、結果的に予定より2回多く、のべ6回（6月分は2回実施したものとして計算）開講した。講師も関東以外の人担当できるようになり、地域色を出すことができた。△ナチュラル・アプローチ手話教授法講座を東京・大阪の2ヶ所で開催する予定であったがコロナのため中止となった。テキストを見直し、第7版を会員配布用も含め200部印刷発注した。△ステップアップ講座も同様に中止となった。

【研修】集中研修会は年に2回実施予定だったが、コロナによりオンラインに移行し、2020年10月から2021年1月まで全10回（20時間）実施した。参加者は40名であった。△第20回日本手話教育研究大会をオンラインで2月に開催した。参加者は約210名であった。△手話教師育成研修会は、年度末の3月にオンラインで実施した。エンパワーメントチーム（アドバンス plus 以上及び理事）27名が参加した。△自主研修会は0件であった。

【派遣】（株）アウトソーシングビジネスサービスダブルピーとは協力関係にあり、WP手話寺子屋講師はすべて法人に登録している教師が担っている。△企業、民間団体などへの講師派遣、登録手話通訳者

研修会への講師派遣等を行なった。ただ、池袋コミュニティカレッジは、百貨店の営業時間に準じているため、緊急事態宣言等による閉店、時間短縮により手話講座もその間は閉講となった。△個人レッスンについては、個人1件、大学教員2件（去年の3件より1件減）である。

【開発】DVD プロジェクトについては、(株)アウトソーシングビジネスサービスダブルピーよりタイトル料を1件分受領した。該当DVDは『終わり』である。△オンラインによる手話学習サイト「サインアイオー」の監修を行なった。

【翻訳】日本手話に特化した翻訳・通訳技術向上支援事業（日本財団助成事業）は新しい局面を迎え、事業名も「コミュニティ及び学術分野におけるろう通訳者・リーダー養成」に変わった。コロナにより、当初予定していた日程をすべて見直し、オンライン翻訳講座、通訳理論講座、ろう通訳者養成講座、リーダー養成講座を開講することができた。オンライン翻訳講座は、Googleの学習支援ツールであるクラスルームを活用し、すべてオンラインで行なった。通訳理論講座はすべてオンライン、ろう通訳者養成及びリーダー養成講座については、対面が必要な場面以外はほぼオンラインで行なった。△ろう通訳者養成講座、リーダー養成講座の修了生を中心にした研修会を2回実施した。左記とは別に自発的な研修会を15回実施した。（2020年9月末現在）△通訳研修（通訳機会の確保）のための特別講演会は、今年は実施することができなかった。△通訳OJTプログラムとして、通訳OJTを1件実施した。コロナのため、昨年度と比べ件数が激減している。ただし、OJTによらず、紹介によって、テレビ放送や動画配信等にろう者と聴者が協働しろう者による通訳が提供される機会が増えた。△学術分野におけるろう通訳者・リーダーの養成については、国立民族学博物館主催のSSLL2020において通訳（オンデマンド及びオンライン）を行なった。△ろう通訳の資格化と関連して、現在「NCIEC Deaf Interpreter Curriculum (2016)」(ろう通訳者養成のカリキュラム)の翻訳に手がけている。

なお、2021年7月末までに事業を延長しており、会計も含め中間報告となる。

【啓発】ホームページ、Facebook、ツイッター等で広報、啓発を行なった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【9,336】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
手話教師育成事業	定例会の開催	年4回	オンライン	15名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約650名	212
	日本手話ブラッシュアップ講座等における教師育成	年6回	オンライン	10名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約370名	789

	ナチュラルアプローチ 手話教授法講座 ステップアップ講座への 教師派遣	-	-	- 名	手話教師をめ ざすろう者、 コーダ、NA 手 話教授法講座 修了生	- 名	107
手話教師 研修事業	集中研修会	10～1月	オンライン	10名	手話教師	40名	211
	日本手話教育研究大会	年1回 2月	オンライン	15名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約 210名	340
	手話教師育成指導者研 修会	年1回 2月	オンライン	2名	手話教師指導 者	27名	56
	手話教師自主研修会	通年	-	-名	手話教師	-名	-
手話教師 派遣事業	手話教師の派遣	通年	事務所	2名	市民 手話学習者 手話通訳者	約 3,000 人	2,185
手話教授 法に関する 教材開発 事業	サインアイオーからの 業務委託	通年	事務所	2名	手話学習者等	約 130人	265
翻訳・通 訳に関する 事業 (2021年 7月末延 長)	手話通訳者の養成(ろ う通訳・フィーダー等)	11月～5 月	オンライン	4名	ろう者 手話通訳者	55名	5,111 (総額)
	ろう通訳者・フィーダ ーの研修	通年	東京 オンライン	3名		12名	-
	学術分野におけるろう 通訳者・フィーダーの 研修	通年	オンライン	3名	ろう通訳者 フィーダー	20名	-
	通訳 OJT プログラム	通年	東京・愛知 オンライン	3名	ろうフィ 通訳利用者 市民	200名	-
	ろう通訳者の資格化プ ロジェクト (翻訳・冊子化)	通年	事務所	5名	ろう者 手話通訳者 市民等	-名	-

ろう者特化の文化啓発事業に関する普及事業	ホームページ、SNS の運用	通年	事務所	3名	ろう者、聴者等、一般市民正会員・賛助会員	約100人	61
----------------------	----------------	----	-----	----	----------------------	-------	----

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)